

# コンプライアンス&リスクマネジメント

松下電器産業 株式会社 理事 村田 恒子氏

ATAC15周年 記念講演会

## ◆企業不祥事の原点

最近、企業の不祥事が多発し、トップが謝罪する映像がしばしばテレビ画面に出てきます。10年間に企業不祥事で100人以上のトップが辞任している上に、不祥事の類型も多様化し、総会屋への利益供与・インサイダー取引・入札談合・粉飾決算・品質問題隠し・環境汚染など多岐に亘る不祥事が発生しています。

相次ぐ不祥事の共通点として、法律違反、社会常識の欠如・対応の遅れが挙げられますが、いずれも企業と社会常識の乖離と言えます。

## ◆変化の時代

このような状況の中で「企業の信頼感の維持・向上に重要なものは何か」というアンケートに対して、1位は「企業倫理の確立と順守」で52%を占め、単に結果が良ければという「結果責任」から、そのプロセスも評価される「結果責任もプロセス責任も」と企業への社会的期待の変化が見られます。このように社会の価値観と企業の価値観のギャップが発生してコンプライアンス（法令順守の管理体制）が企業経営の重要な要素となり、法令順守は最低基準となりました。

## ◆企業の内部統制とCSR

法令順守のためには内部統制が必要で、これによりCSR（Corporate Social Responsibility）=企業の社会的責任を果たすのです。

企業活動は従来経済優先であったが、社会的側面、環境的側面も同じように大事にしていこうということです。

松下幸之助氏は昔から「企業は社会の公器」とし、企業は事業を通じて社会に貢献する事を社会的責任として下記の3原則を銘記しています。

1. 企業の本来の事業を通じて、社会生活の向上、人々の幸せに貢献していくこと。
2. その事業活動から適正な利益を生み出し、それをいろいろな形で国家社会に還元していくこと。
3. そうした企業の活動の過程が、社会と調和したものでなくてはならないこと。

## ◆リスクマネジメント

リスク(risk)の語源はイタリア語riscareで「勇気をもって試みる」という意味ですとの説明の後、リスクの定義について明解に下記のように示されました。企業におけるリスクとは

- 災害・事業リスク～地震・台風・火災・テロ他
- 政治・経済・社会リスク～戦争・企業脅迫・誘拐他
- オペレーショナルリスク～PL・リコール、ご不満対応
  - ～知財権侵害、独禁法違反
  - ～営業秘密漏洩、プライバシー侵害
  - ～環境汚染、不良債権
  - ～技術開発遅れ・生産遅れ他
- 市場環境リスク～市場価格下落・他社との競争激化



▲講演を行う村田氏

企業における事業リスクとは

- 事業計画の方針・重点施策の推進を阻害する発生不確実な事象
- 中期計画の戦略テーマの推進を阻害する発生不確実な事象

## ◆情報セキュリティ

個人情報の流出による膨大な賠償額のデータを示し、情報セキュリティの大切さを説明されました。

情報セキュリティの対象範囲は技術情報・営業情報・個人情報で、お預かり情報と自己情報があります。お預かり情報の漏洩は会社の信用失墜に繋がり、自己情報の漏洩は競争力の低下に繋がってきます。

更に、サムソン・IBM・キャノンを例に挙げて情報セキュリティレベルの高い企業が営業利益率も高いことを図示されました。

情報は壁に囲まれているとすれば、一箇所壁の低いところがあると、そこから情報がジャジャ漏れになるので、全社的な情報セキュリティ運用管理強化が必要です。情報セキュリティは経営品質そのもので、認識の甘さ・煩雑と思う心が命取りになります。そのため、全員の意識改革・風土改革によって、社員を信用できる情報管理風土を確立する必要があります。

## ◆コンプライアンス（法令順守の管理体制）の強化

10年ほど前までは法令違反は珍しかったが、談合事件の多発など、違反が増えると共に独禁法、会社法、外為法等、企業に関連する法令も厳しくなり「知らなかった」では済まされない時代です。

コンプライアンスの語源は「充足・調和すること」で単なる「法令順守」ではなく、社会からの要請に応え、組織の目的を実現することこそコンプライアンスの実践であり、全てにおいて、コンプライアンスが優先し、違反を「しない風土」と「させない仕組みづくり」が大切です。

「めざす姿はコンプライアンスとリスクマネジメントによって得られる企業価値の向上です」と結んで終わりましたが、堅苦しい法令の話を多数の画面で分かりやすく説明され、企業の社会的責任の大切さがよく理解できて時代に即した意義ある講演であったと好評を博しました。（田頭記）